

私の育休報告

はじめての父親1年生

当会会員 男性会員 (66期)

当会では、2歳未満の子を養育する会員に対し、子の誕生日から満2歳に達する日の属する月の末日までに申請することにより、性別を問わず、12か月分（多胎出産の場合は18か月分）の会費免除を行っていますが（※）、会費免除を受けた会員は、報告書を提出することが義務付けられています。本コーナーでは、当該免除制度を利用した会員の報告書をご紹介します。各会員が実りある育休期間を過ごし、スムーズに業務復帰するための参考としていただければと思います。

（※）2019年7月より、会費免除期間が延長になりました。

私は、平成30年に生まれた子どもが第1子だったことから、子育てがはじめてでした。

新生児の頃は、子どもがあまりにも小さく、か弱く、私も慣れていないことから、抱っこ、もく浴、着替え、おむつ交換など、子どもと接すること全てが緊張感に包まれていました。首もすわっていなかったので、抱くこともこわごわ行っていたことを覚えています。

お風呂トレーニングの際、ベテランの看護師さんから、「もっと大胆にやっちゃっていいわよ」と言われ、子どもにざあざあお湯をかける姿にびっくりしたものです。最初はおっかなびっくりでも、おむつ交換は毎日複数回するものですし、もく浴も、何度もするうちに慣れてきました。

子どもが3か月くらいから、少しずつ首がしっかりし始めました。体重が増えたことも実感するようになりました。6か月頃には、首も完全にすわり、抱っこやお風呂に、それまでのような苦勞を覚えることがなくなりました。こんな短期間に、子どもは成長するものなんだと感心しました。

一度、高い高いをしようとして、天井の低くなっているところへ頭をぶつけてしまったり、子どもが寝返りを繰り返して、ベッドから落ちてしまったりということがあり、夫婦そろって肝を冷やしたことがありました。ベ

ッドから落ちた際には、病院に駆け込んだほうがいいのか、何かすべきことはないのか、慌てて先輩ママに電話で相談すると、子どもがちゃんと泣いているのか、反応があるのか確かめられ、その結果、その程度のことで、子どもに何か問題が起きるなら、とっくに人類は地球から滅んでいる、とあきれられ、夫婦で子どもに変わった様子がないことを確かめてから、笑い話になりました。

スマートフォンに入っている写真の種類もまるで変わりました。子どもの笑顔は、いつでもエネルギーをくれます。妻とも笑いながら写真を見る時間も増えました。

子育ては、知らないこと、心配なこと、初めてのことの連続です。それでも、子育ての先輩によく話を聞き、子どもの笑顔に励まされながら、なんとか今日までこなしてきました。子どもはどんどん成長し、その分だけ経験が溜まる自分も、自然と父親として成長しているなあと思っています。

これから子育てをする弁護士のみなさんは、どうか恐れすぎず、いろいろな人に助けをもらいながら、楽しんで子育てをしてもらいたいと思います。

■